

# 第1部 高収益作物等の取組

(水田農業高収益化等検討チーム 水田高収益WG 検討資料)

1 水田農業高収益化等検討チーム水田高収益WG 品目別導入のポイント及び取組事例について	1
2 品目別導入のポイント	
・ブロッコリー、たまねぎ	2
・ねぎ、えだまめ	3
・さといも、カリフラワー	4
・トウモロコシ、なす	5
・にんにく、じゃがいも	6
3 取組事例	
・水田転作におけるカリフラワー栽培について	7
・各農林振興センターにおける野菜生産拡大の取組について	21

WGメンバー 全農埼玉県本部、農業政策課、農業支援課、生産振興課



## 水田農業高収益化等検討チーム水田高収益WG 品目別導入のポイント及び取組事例について

本県は、恵まれた自然条件を生かし多彩な農産物が生産されており、特に野菜は全国第9位の産出額を誇る全国有数の産地となっています。

また、大消費地である首都圏の中央にあるといる地の利を生かし、多様な流通・販売ルートが形成されており、さらには県内の食品事業者から加工・業務用に適した野菜供給に対して高い潜在ニーズがあります。

このようなことから、本県には、水田農業において経営の安定化を図る方策の一つとして、野菜等の高収益作物を導入し、所得向上を図ることができる下地があります。

水田農業高収益化等検討チームでは、水田高収益化の推進に当たり、今後、需要拡大が見込まれ、比較的、機械化や省力化が可能な10品目の野菜を推進品目として設定しました。

地域で新品目を推進する際には、収益性や労働負担、米麦との作業の競合性、土質や排水性などの圃場条件等から品目を選定し、産地の関係者でよく話し合い、合意形成を図った上で、基盤整備や施設・機械の導入等を計画的に行い、取組を進めることが重要です。

このたび、水田高収益化の推進にあたり参考資料となる「品目別導入のポイント」と先行事例をとりまとめた「取組事例」を作成しましたので地域の話し合い等にあたってご活用ください。

### ○「品目別導入のポイント」の留意点

- ・ 「目標売上」は、国の統計値等から引用した収量と共販実績から引用した単価に基づき試算したものであるため、栽培状況や市況等により、売上額が目標売上を下回る場合があります。
- ・ 「労働性」は、3段階で労働時間を表記しています。
  - ☆ 10a 当たりの労働時間が長い（500 時間以上）
  - ☆☆ 10a 当たりの労働時間 ↓ （200 時間以上～500 時間未満）
  - ☆☆☆ 10a 当たりの労働時間が短い（200 時間未満）

### ○「取組事例」の留意点

- ・ 取組事例については、水田における野菜への作付転換の事例だけでなく、畑地における野菜の生産拡大の事例も含まれています。











# 水田転作における カリフラワー栽培について



全農埼玉県本部 園芸販売課・米麦課 西部駐在

## 1. 水田転作について

主食用米消費量の低下による米価の下落により、安定的な農業経営のための水田の有効利用が大きな課題となっています。このような中、有効利用のひとつとして野菜栽培が注目され、新たに水田で野菜栽培に取り組む産地が年々増加しています。

水田転作には下記のようなメリットがあります。

- ①収益性の高い野菜作を主穀作と組み合わせて経営することより、**所得の向上が期待できる。**
- ②野菜作後に水稻作を行うことにより、野菜栽培に伴う病原菌や特定養分の蓄積を抑え、野菜作の連作障害を軽減できる。
- ③水田状態と畑状態が数年おきに変化することで、**連作による水田雑草や畑雑草の増加を抑制できる。**

しかし、野菜導入に際しては、「思ったように栽培できない」、「主穀作の作業に追われ、野菜作業に手が回らない」、「野菜専用の機械を購入しなければならない」等の課題が考えられます。

## 2. 水田におけるカリフラワー栽培

### (1) 水稲との作業回避

野菜は品目によって農繁期が大きく異なります。このため主穀作の農繁期との作業競合を考慮して品目を選定する必要があります。

⇒カリフラワーは定植が8月中下旬、収穫が11～1月のため、水稲農繁期を避けて栽培できます。

【埼玉県主要農作物施肥基準より抜粋】

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
カリフラワー	夏まき 秋冬どり							○	○	◎	◆	◇	◇				2,400

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 3. 水田におけるカリフラワー栽培

#### (2) 必要な機械・施設

品目によって必要な機械が異なります。また、野菜苗の育苗を行う場合は育苗ハウス等も必要となります。野菜導入当初は過大な負担とならないよう、できるだけ機械・施設の導入コストの低いものを選定する方が良いです。

⇒カリフラワーは**苗での供給が可能です**。また、作付面積10~20 a程度であれば手で定植もできるため、初期導入コスト（移植機・育苗資材・ハウス）も抑えられます。**育苗を実施する必要がなく、労力軽減も図れます**。

#### (3) 販売先の確保

販売先は市場、流通業者との契約販売、地域の直売所等が考えられます。地域の状況等をよく検討し、販売しやすい品目を選定する必要がありますが、特にカリフラワーは市場販売価格が安定しています。

⇒**全農青果ステーションを通じた市場出荷**ができます。

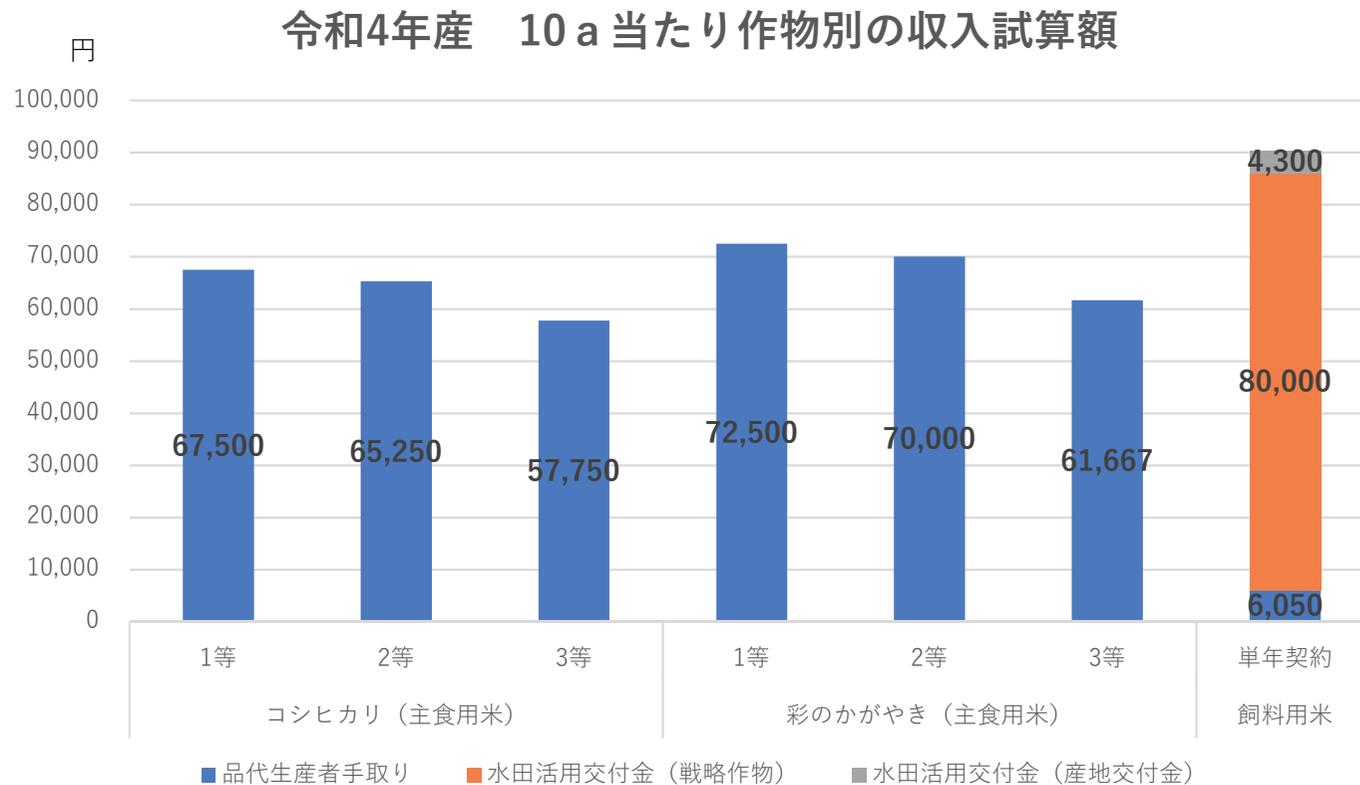
価格（JA仕切単価）：市場相場による **（玉100円以上での販売を目指す）**

## 4. 水田におけるカリフラワー栽培

### (4) 生産者の手取り確保

主穀農家の令和4年産収入試算は下記の通りです。

主食用米で約5万7千円～7万3千円、水田活用米穀の飼料用米で約9万円となっています。



※主食用米は概算金で試算しています。今後の販売状況により追加精算もある予定です。

## 5. 水田におけるカリフラワー栽培

カリフラワーを園芸・主穀農家が栽培する場合の収入試算は下記の通りです。

区分	10 a 当たり収入試算額
園芸農家	8割出荷（2,800玉）できた場合：28万円
主穀農家	6割出荷（2,100玉）できた場合：21万円

栽植本数3,500本/10 a、価格：100円/玉で試算

主食用米、水田活用米穀（飼料用米）に取り組んだ場合より  
**2～3倍の収入が見込めます。**

## 6. 水田におけるカリフラワー栽培

### (5) 10a 当たり肥料農薬コスト試算

令和5春肥予約概算価格で彩のかがやきとカリフラワーの肥料農薬コストを試算すると下記の通りとなります。

#### ①彩のかがやき:基肥+追肥の場合

区分	品名	規格	使用量	施肥成分量(kg)			概算価格 (税込)
				N	P	K	
土壌改良資材	農力アップ	20kg	60kg				3,480
基肥	化成肥料14-14-14	20kg	40kg	5.6	5.6	5.6	6,560
追肥	化成肥料17-0-17	20kg	20kg	3.4	0	3.4	3,140
箱剤	ルーチンアドスピノ箱粒剤	1kg	1kg				3,480
除草剤	エンペラー1キロ粒剤	1kg	1kg				3,120
除草剤	レプラスジャンボ	400g	400g				3,880
殺虫剤	スタークル豆つぶ	250g	250g				3,310
計							<b>26,970</b>

#### ②彩のかがやき:基肥一発肥料の場合

区分	品名	規格	使用量	施肥成分量(kg)			概算価格 (税込)
				N	P	K	
土壌改良資材	農力アップ	20kg	60kg				3,480
基肥一発	スーパーらくだ君ネオ	20kg	40kg	10.0	4.0	4.0	10,780
箱剤	ルーチンアドスピノ箱粒剤	1kg	1kg				3,480
除草剤	エンペラー1キロ粒剤	1kg	1kg				3,120
除草剤	レプラスジャンボ	400g	400g				3,880
殺虫剤	スタークル豆つぶ	250g	250g				3,310
計							<b>28,050</b>

#### ③カリフラワー:化成肥料の場合

区分	品名	規格	使用量	施肥成分量(kg)			概算価格 (税込)
				N	P	K	
基肥	化成肥料14-14-14	20kg	100kg	14.0	14.0	14.0	16,400
殺虫剤	プレバソフロアブル	250ml	17.5ml				199
殺虫剤	グレーシア乳剤	250ml	100ml				2,260
殺菌剤	アフエットフロアブル	100ml	50ml				795
計							<b>18,859</b>

#### ④カリフラワー:混合堆肥複合肥料の場合

区分	品名	規格	使用量	施肥成分量(kg)			概算価格 (税込)
				N	P	K	
基肥	エコベレット055	20kg	140kg	14.0	7.0	7.0	17,640
殺虫剤	プレバソフロアブル	250ml	17.5ml				199
殺虫剤	グレーシア乳剤	250ml	100ml				2,260
殺菌剤	アフエットフロアブル	100ml	50ml				795
計							<b>20,099</b>

※プレバソフロアブルは育苗期後半～定植当日に1回灌注。グレーシア乳剤は定植の20～30日後、結球始期の2回散布。アフエットフロアブルは結球始期に1回散布。

## 7. 令和4年度の水田転作試験事例

令和4年度、埼玉県西部管内の法人において水田転作によるカリフラワー栽培試験を実施しました。

法人は米麦中心（水稻、小麦、大豆）に作付しており、米と麦の合間に野菜（主にネギ、ニンジン）も栽培しています。ニンジンについては契約栽培を数年行っていましたが、反収が中々増えない状況で栽培を続けていました。

そこでニンジン取組を中止し、カリフラワーへ栽培をシフトして10aの試作を開始しました。

カリフラワー  
試験圃



## 8. 令和4年度の水田転作試験事例

9月2日



9月29日



10月12日



10月25日



11月8日



9月の長雨で一部湿害が見られましたが、その後の生育は概ね良好でした。

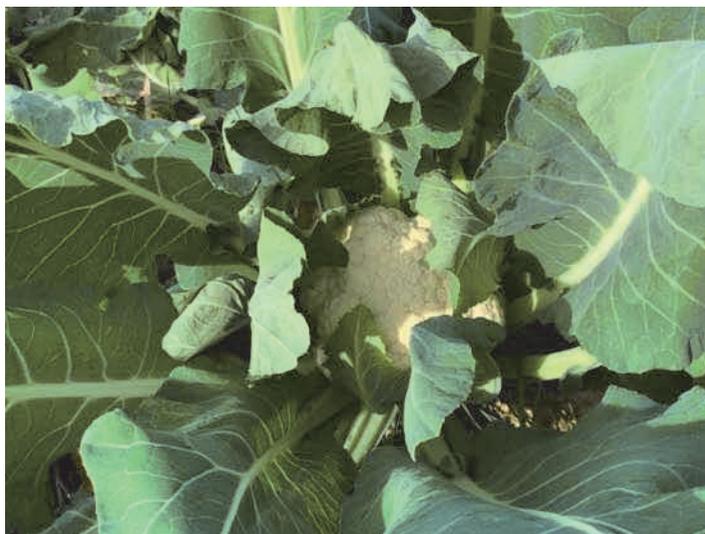
## 9. 令和4年度の水田転作試験事例

11月24日



**全体で5割程度の出荷を  
行うことができました。**

【課題】 湿害対策を行い生産ロスの  
軽減を行う事と病害虫への対策  
が必須となります。



## 10. 令和4年度の水田転作試験事例

### (1) 品目等

品目名	品種	作型 (新技術)	面積 (a)	播種日	定植日
カリフラワー	雪まつり	水田 露地	10	苗供給	9/1

### (2) 使用資材（種苗・肥料・農薬・生産資材等）

※出荷資材、農機・ハウス等施設費、人件費等を除く直接費用

区分	使用資材名	使用時期	使用量	生産費用総額 (※)
種苗	雪まつり	9/1	35 箱	43,750 円
肥料	化成肥料 14-14-14	8/25	5 袋	18,400 円
農薬	フェニックス顆粒水和剤	10/25、11/10		2,300 円
			合計	64,450 円

### (3) 生産・販売状況

生育 <sup>◁</sup>	品質 <sup>◁</sup>	収穫期間 <sup>◁</sup>	収量 (kg) <sup>◁</sup>	販売先 <sup>◁</sup>	販売金額 <sup>◁</sup>
やや不良 <sup>◁</sup>	良 <sup>◁</sup>	11/17~12/1 <sup>◁</sup>	235 ケース <sup>◁</sup>	全農青果 ST <sup>◁</sup>	166,554 円 <sup>◁</sup>

## 1 1. カリフラワーの推奨品種

水田転作におけるカリフラワー栽培では「**雪まつり**」を推奨します。  
重量感があり異常花蕾の発生が少ない早生種です。



### 【特性】

- ・ **定植後約65日で収穫期になる早生種。**
- ・ 草姿はやや立性で草勢は強い。葉幅は広く、包葉傾向が強い。
- ・ 花蕾形状は豊円で盛り上がり良い。凹凸少なくきめ細かく、花蕾色は白い。
- ・ 異常花蕾の発生少なく、品質は良好である。また、**早生種としては湿害に強い。**
- ・ 花蕾は大型で重量感があり、約800gになる。

### 耐病性表

品種名	熟期		草姿	重量(g)	花蕾の特性			耐暑性	耐寒性	播種期の適応性	
	早晚性	定植後の日数			直径(cm)	色	包葉			品質	春
雪まつり	早生	65日	半開張性	800	15	白	有り	優	強	-	○

出典：株式会社 武蔵野種苗園HP

## 1 2. カリフラワーの推奨品種

### 【栽培上のポイント】

- ①肥料設計は元肥を中心とするが、**雪まつりは草勢が強く多肥により花蕾形状の乱れや割れが起きるため他品種の1～2割程度減肥とし、一部を草勢に応じて追肥で補うと良い。**
- ②冷涼地では育苗時期が低温のためボトニング※1に注意する。育苗は温床で18℃を確保し、定植後は被覆資材を活用する。
- ③中間地・暖地では育苗時期が非常に高温になる。発芽するまでは地温が30℃以上にならないよう管理する。
- ④栽培期間が短い超極早生種・早生種では初期生育が重要である。定植後活着するまで適宜灌水を行う。
- ⑤花蕾を白く仕上げるためには葉折り、縛葉による遮光が必要（特にホワイトパラソル）。
- ⑥初秋は気温が高く収穫時期を逃しやすいいため取り遅れに注意する。適期に収穫しないとアントシアンが発生しやすい。

※1 ボトニング（早期出蕾）：花蕾肥大に必要な葉数を確保する前に花芽分化し、結果的に小花蕾となること

出典：株式会社 武蔵野種苗園HP

### 1 3. 最後に

令和5年産に向けた取組方針として令和5年産の主食用米等作付面積は、昨年と同水準の「生産の目安」の面積が目標とされました。

また、作付転換にあたっては、定着性の高い作物（麦・大豆・飼料作物・**高収益作物**等）への取組を拡大する他、需要のある作物へ取り組むなど、中長期的な視点から作付を進めるとされています。

**安定的な農業経営のために水田転作におけるカリフラワー栽培導入（まずは10～20a程度）についてご検討を宜しくお願い致します。**

# 農業法人による補助事業を活用した野菜の生産拡大(北本市)

対象者:北本アグリ株式会社(平成27年6月設立)

## 地域の概況

- 北本市石戸地区の主要な農用地は畑地であり、担い手不足から、遊休化する農地が増加するなど、農地の有効利用策が求められていた。
- 農業法人を設立し、施設ミニトマト栽培で農業参入した地場で土木業を営む企業が、周囲に農地の貸し手が多いことから、需要も見込めて作業の機械化もできる露地のネギ栽培で生産拡大に取り組んでいる。

## 取組状況

### ○ 地域内農地の有効活用

- ・ 地域の花き農家の空きハウスを借りて、施設ミニトマト栽培を開始。
- ・ 露地栽培で一定の需要が見込まれること、生産工程での機械化が容易なことから、ネギを選定して規模拡大に取り組む。
- ・ 農地については、地権者と使用貸借での権利設定を行い集積を図る。

### ○ 補助事業(県単)を活用した作業機械の導入と省力化への取組

- ・ 県単事業を活用して、ネギの機械化一貫体系を実現。
- ・ 令和元年度 埼玉野菜プレミアム産地づくり事業  
ネギ用収穫機、ネギ調整機  
ネギ選別機
- ・ 令和2年度 埼玉野菜プレミアム産地づくり事業  
乗用型ネギ管理機、付属肥料散布機、  
ネギ調整機

### ○ 後継者育成のための取組み

- ・ 県農業大学校生の卒業生を受入れ  
受入れ実績 4人(R3~R5)



乗用管理機+肥料散布機

## これまでの成果

- ・ 当初は空きハウスで50aのミニトマト栽培に取り組んでいたが、露地での規模拡大を目的に農地集積に取り組んだ。
- ・ ネギ栽培で機械化一貫体系を確立したことから、現在、910a規模まで作付けを拡大。

## 今後の課題と対応

- ・ 連作による土壌病害等障害の発生が懸念されるので、緑肥等地方力増進作物を取り入れた作付け体系の見直しに取り組む。
- ・ 規模拡大に伴い、規模に見合った適正な労力の確保が課題。

# 拠点施設を活用した生産拡大への支援(入間地域)

対象者: 入間地域内の野菜生産者

## 対象地の概況

- 入間地域のさといもは地域の主要作物であり、県内においても有数の産地である。令和元年度のさといもの農業産出額は入間地域は36.7億円であり、県内さといも産出額の75%を占めている。
- さといもは収益性が高く、生産者の生産意欲は高いが、連作を避ける必要があるとともに、出荷調製作業への労力確保が必要であることが、生産拡大の課題となっている。

## 取組状況

### ○ 拠点施設の活用

- ・JAいるま野は狭山市内にさといも選果場を整備し、R2秋から稼働を始め、出荷調整作業の省力化が図られることから、生産拡大が進む。
- ・JAは出荷時期の集中化を避け、稼働期間の延長を図るため、受入れ態勢の調整を実施している。

### ○ 品質向上、収量の安定確保への指導

- ・疫病の効果的な防除を実施するため、県市JAが一体となり、さといも振興研究会を組織し、組織的な防除体制の整備、情報共有の強化を図る。
- ・スマート農業への取組として、運搬ロボット、自動操舵システム等やドローンを活用した防除の実証に取り組む。
- ・埼玉野菜プレミアム産地づくり事業等を活用し、機械化体系を支援する。

### ○ 水田における安定生産技術の実証

- ・水田栽培の課題である収量、品質の確保に向けた実証に取り組む。

水田さといも実証ほどの生育状況(7月)



## これまでの成果

選果場の整備に合わせ、生産意欲の高い生産者を中心に生産拡大が図られた。また、補助事業を活用した機器導入により生産拡大を支援し、32ha相当の生産拡大が見込まれる。

## 今後の課題と対応

- ・生産拡大とともに品質・収量の安定確保を行うためには、優良農地の確保、機械化体系の整備、灌水施設の整備、拠点施設の機能強化などを推進する必要がある。
- ・優良農地の確保や集約化による効率化を進めるためには、農地中間管理制度や地域計画を活用し、畑地における貸借の流動化を推進する必要がある。
- ・水田栽培の課題である収量、品質の確保には試行が引き続き必要。

作成: 川越農林振興センター

# 加工用じゃがいもの作付拡大(川島町)

対象者:(株)アグリネーション 代表 大野良介氏

## 対象地の概況

- 対象地は、水田地帯である川島町の旧荒川の堤外地に位置しており、雨が降ると冠水することが多く、排水対策が課題となっている。また、遊休農地も広がっている。
- 川島町では、近年、若い農業者が増加している。大野氏をはじめとする町内の若手生産者は「川島野菜出荷連合ATOM」を結成し、相互に協力しながら生産活動を行っている。

## 取組状況

### ○ 遊休農地解消の推進

- ・関係機関の連携体制の構築
- ・対象者の取組意向の確認
- ・農地利用調整、事業予算の確保
- ・遊休農地・再生活用事業の実施

### ○ 安定生産・経営体の体制強化の促進

- ・作付計画の作成
- ・専門家による経営相談会の実施
- ・排水対策、土壌改良、栽培技術指導の実施

### ○ 販路の確保

- ・ポテトチップス製造メーカー等との契約栽培



## これまでの成果

県・町・農委・JAが連携し、遊休農地・再生活用事業の活用を支援したことで、遊休農地の解消につなげた。併せて、資金活用や法人化についても支援したことで、作付けが拡大し、R5.9月時点でじゃがいも作付けは12haとなった。

## 今後の課題と対応

- ・遊休農地だった堤外地に作付けていることから、排水対策や雑草防除、作付計画作成など、安定生産に向けた支援が引き続き必要である。
- ・次作では、さらなる規模拡大を計画していることから、更なる作業の効率化が進むよう、農地集積に向けた支援が引き続き必要である。
- ・規模拡大に応じた労働力が確保できるよう、法人の経営環境改善に向けた支援が必要である。

# しゃくし菜の作付け拡大(秩父地域)

対象者:しゃくし菜生産者30人

## 対象地の概況

- 秩父地域で生産されるしゃくし菜は、漬物の原材料として、農協と地元の漬物業者へ計画出荷され、秩父名物「しゃくし菜漬物」として販売されている。
- しゃくし菜は露地栽培で栽培期間が約2か月と短期間であることから、比較的取り組みやすい作目であるが、収穫が手作業で高齢者には重労働であり10a程度の小面積の生産者が多く、規模拡大が難しい。
- 50a以上作付けする生産者も7～8名おり、全体では約6haの作付けがある。今年度、施設きゅうり経営を行う法人が新規に生産に取り組んでいる。

## 取組状況

### ○ 生産拡大に向けた推進

- ・新規しゃくし菜栽培希望者の推進、把握、JA営農指導員との情報共有
- ・JAによるは種機の貸出



は種機によるは種作業

### ○ 計画出荷への対応

- ・は種時期の統一
- ・JAと連携した栽培・出荷の各講習会開催
- ・病虫害防除指導や生育状況、収穫状況の巡回確認
- ・JAによるほ場荷受け

## これまでの成果

今年度、1法人が新規に40a栽培を開始し、R5.9月末時点で作付面積が40a拡大した。

## 今後の課題と対応

収穫期の人手不足が課題であるため、株間の調整など収穫時期を分散させる技術の確立が必要である。



収穫作業

## 農業機械や施設のリースを活用した規模拡大(本庄管内全域)

対象者: 本庄一元出荷協議会きゅうり部会、児玉胡瓜部会、加工用キャベツ・ブロッコリー生産者等 158戸(認定農業者数90人)

### 対象地の概況

- 国庫事業を活用してJA埼玉ひびきのが低コスト耐候性ハウスを整備して農家にリースすることで、きゅうりの規模拡大を進めている。併せて、環境制御装置を整備してハウス内の環境をコントロールし、きゅうりの安定生産・収量増加につなげるなど生産性の向上を目指している。
- 規模拡大志向のある法人(\*)では、施設きゅうり栽培に加え露地野菜においても各種事業の積極的な活用により、機械化一貫体系を確立し大規模経営を目指している。\*(株)イーファーム)

### 取組状況

#### ○ 規模拡大に向けた推進

- ・作付け拡大及び事業導入について、JA担当者等と情報交換
- ・農地中間管理事業を活用した作付け農地の確保

#### ○ 環境制御技術活用支援及び主要病害虫対策による生産力強化

- ・勉強会活動やデータ共有等の支援を行い、環境制御技術の向上を図る。
- ・きゅうりのネコブセンチュウ対策として土壌還元消毒を行うなどし、病害虫の発生を抑えるよう支援する。



現地検討会(土壌還元消毒)

#### ○ 各種補助事業の活用

##### (1) 強い農業づくり担い手交付金

- ・R3年度作付け実績: ハウス5棟 8,682㎡ うち水田 7,782㎡
- ・R5年度事業導入 : ハウス5棟 8,730㎡ うち水田 5,868㎡

##### (2) 埼玉野菜プレミアム産地づくり事業及び化学肥料低減経営強化緊急対策事業

- ・規模拡大志向のある法人(\*): 管理機・運搬機、フレールモア、プラウ等導入

### これまでの成果

- ・規模拡大志向のある法人(株)イーファーム)では、農地中間管理事業の活用により農地を借受、現在、水田11haでブロッコリー、ねぎ、なすなどの露地野菜栽培に取り組んでいる。また、R3年度に引き続き、R5年度のリース事業の対象農家としてきゅうりの作付けも拡大する。

### 今後の課題と対応

- ・規模拡大に伴い労力の確保が課題であり、地域内雇用の促進を図る必要がある。
- ・R5年度リース事業対象農家5戸のうち2戸は新規きゅうり栽培者であり、技術的な支援が必要である。
- ・加工用ブロッコリー等において、JGAP認証を取得したことから、さらなる作付け拡大と有利販売の推進を図る。

作成: 本庄農林振興センター

# ねぎの作付け拡大(熊谷市)

対象者:熊谷市内主穀作法人(6法人)及び経営者(11戸)、第3者継承による主穀作経営者(1戸)

## 対象地の概況

熊谷市の主穀作経営において、冬期の雇用労力を活用したねぎの栽培が行われている。栽培地は水田が多いが一部で陸田が利用されている。また、地域により野菜農家が難防除病害虫対策のために水田を利用したねぎ生産が行われ安定生産を実現している。気象変動等や難防除病害虫の影響から近年ではねぎが作りにくい状況にあるため、緑肥の導入に関する関心が高まりつつある。

## 取組状況

### ○ 水田を利用した生産拡大

- ・主穀作経営におけるねぎの生産安定と作付け拡大について、継続的に巡回指導。
- ・熊谷市担い手育成協議会と連携しねぎ基礎栽培講習会の実施。
- ・基盤整備後の水田を活用したねぎ生産に関する技術支援。
- ・埼玉野菜プレミアム産地づくり事業の活用  
R5:主穀法人1戸(移植機、収穫機等)

### ○ 主穀生産者との意見交換会の開催

熊谷市内の主穀作法人を対象に冬季の労力を活用したねぎの導入事例、問題点について意見交換会を実施。(R5.3)

### ○ 若手ねぎ生産者の研究活動を支援

- ・若手農家11戸が、緑肥導入によるねぎの生産安定とブランド化への取組を開始。  
(R4.9)勉強会、緑肥活用セミナー等を開催し、研究活動を支援。
- ・害虫の発消長調査の実施と情報提供。



基盤整備後の水田を活用した栽培

## これまでの成果

主穀作経営者の生産安定のための重点的な巡回指導を実施。栽培講習会や意見交換会を開催し水田作付けを推進。  
R5.12月末時点で4.5ha作付け拡大。

## 今後の課題と対応

- ・主穀作経営では米麦に影響のない範囲で栽培が行われ、更なる拡大は困難。ねぎ導入希望者の発掘と栽培を支援する。
- ・水田栽培の優位性を生かして野菜生産者にも水田導入を推進する。
- ・主穀作の農繁期には栽培管理が疎かになり雑草や病害虫が課題となっているため、省力的な技術や効率的な作業体系を検討していく。

## ねぎの作付け拡大(深谷市)

対象者:JAふかや南部、北部出荷協議会ねぎ部会、JA埼玉岡部一元野菜出荷協議会ねぎ生産者、JA花園露地部会、埼玉産直センター、市内3市場ねぎ出荷者等650戸(認定農業者数180人)

### 対象地の概況

- 深谷市のねぎ農家は、「規模拡大志向のある法人及び若い担い手農家」と「現状維持志向の中小規模農家」に2極化しており、規模拡大志向のある法人等は、機械化一貫体系を確立し大規模経営を展開している。
- 経済性と労働生産性に優れていることからねぎの単作化が進んでおり、難防除病害虫に対し、広域的な総合防除対策を徹底する必要がある。

### 取組状況

#### ○ 生産拡大に向けた推進

- ・ねぎの生産拡大について、JA営農指導員と情報交換
- ・夏ねぎの生産者・法人に作付けの意向を確認

#### ○ 難防除病害虫に対する重点指導の実施

- ・害虫の発生消長調査の実施
- ・JAと連携し、ネギネクロバネキノコバエ・ネギハモグリバエ対策の栽培講習会を開催するとともに、栽培管理等に対する情報を提供
- ・ネギネクロバネキノコバエの防除作業(かん注処理)を軽労化する粒剤体系の実証

#### ○ スマート農業機械実演会の実施

- ・昨年度に導入された直進アシストトラクタ(3台)をはじめとするスマート農機の導入支援。
- ・スマート農機の実演会を実施し、地域の生産者へスマート農機の紹介。
- ・スマート農機の利用による省力化の実証のための調査。



写真:直進アシスト付きトラクタ

### これまでの成果

- ・水田における作付けなどの技術指導や補助事業の活用で、機械が導入され、R5.12月末時点で9.34ha作付けを拡大した。

### 今後の課題と対応

- ・永年の連作による土壌病害や難防除害虫が増え、生産性が低下し作付規模の拡大が難しくなっている。えだまめ等の導入による輪作体系を推進する。
- ・高温・豪雨等による生育不良・腐敗等に対応するためのねぎの管理作業やほ場の排水対策の見直しを進める。
- ・法人等は、規模拡大に伴う労力の確保が必要である。

## 大規模経営の担い手支援(加須市、行田市)

対象者:(株)山中農産(加須市大越地区)、(株)竹井農産(行田市埼玉地区)

### 対象地の概況

- 加須市の大越地区は、水田地帯における農業の高収益化を図るため、排水改良を中心とする農地整備(暗渠排水)が行われ、令和3年度に工事が完了し、令和4年度から効果を検証するため実証栽培が行われている。
- 行田市の埼玉地区は、水田地帯であり米作を中心に野菜、花き、畜産等の複合経営を主体とする農業が盛んに行われている。

### 取組状況

#### ○ (株)山中農産(加須市大越地区)~ブロッコリーの作付け拡大

- ・水田1.1haへの排水対策に加え、豚ふんたい肥の投入及び子実用とうもろこし栽培後の収穫残渣すき込みによる土壌改良の実施。
- ・ブロッコリーの販売先は令和4年度に引き続き全農を通じセブンイレブンへ供給する予定。
- ・プレミアム産地育成事業を活用しブロッコリー一定植用機械等を導入。

#### ○ (株)竹井農産(行田市埼玉地区)~さといも及び落花生の作付け拡大

- ・さといもの作付け拡大に向け栽培管理支援を実施。
- ・プレミアム産地育成事業を活用しブームスプレーヤ及びさといも用収穫調製機を導入。
- ・落花生の機械移植、雑草防除対策(生分解性マルチ)を導入



水田でのブロッコリー作付け



新規導入作物の落花生

### これまでの成果

水田における作付けなどの技術指導や補助事業を活用した機械化による効率化などで作付け拡大を推進。R5.9月末の作付け拡大面積(R3比)

- ブロッコリー:0.8ha
- さといも:1.0ha
- 落花生:5.0ha

### 今後の課題と対応

#### ・ブロッコリー

作付け拡大に伴う収穫・調製作業の労働力不足が懸念され、短期雇用等による解消等を検討。

#### ・さといも、落花生

落花生収穫機に合わせた栽培管理體系(1条植)の確立。

両者とも連作ができない作物であるため、輪作による連作障害の回避技術の検討。

## 夏ねぎ、秋冬ねぎ等の作付拡大(吉川市ほか)

対象者: JAさいかつ吉川園芸部、越谷ねぎ匠の会、露地野菜生産法人(久喜市等7市町)(認定農業者27経営体)

### 対象地の概況

- 当センター管内は、勾配が極めて緩やかな平坦地で水田が76%を占める。
- 南部を中心に古くからの露地野菜産地である。近年は参入法人等による大規模露地野菜経営が増えつつある。
- また、明日の農業担い手塾を設置する市町を中心に、個人の新規参入も定着している。

### 取組状況

#### ○ 関係機関との連携

- ・生産拡大に向けた関係機関との連携(会議開催、情報交換)
- ・台風等大雨災害時の迅速な状況把握と排水対策等技術支援
- ・JA共販部会等への講習会等の支援
- ・JA広報誌を通じた営農情報の提供

#### ○ 農業法人への支援

- ・強い農業づくり交付金等補助事業を活用した施設整備や農業機械導入等の支援
- ・導入後の規模拡大・利用率向上に向けた技術支援(省力化・効率化等問題解決)
- ・ねぎ周年安定供給に向けた夏越対策支援  
品種選定、タイベック等遮光資材の活用、  
緑肥マルチ等

#### ○ 新規就農者への支援

- ・関係3市町連携した明日の農業担い手塾の開設と、塾生に対する就農支援
- ・プロジェクト課題の設定等、個別課題に対する技術支援



### これまでの成果

技術支援や補助事業を活用した施設機械の整備の支援、これらを活用した省力化・効率化の技術支援などにより作付け拡大を推進した。

### 今後の課題と対応

#### ○ 農地の集積・集約化

機械の効率的な利用や、排水対策等のため、畑地化する農地を集約する必要がある。

#### ○ 温暖化対策

病害虫の多発、発生が長期化が問題となっている。生産安定対策の情報を広く発信する必要がある。

また、ねぎの夏越しや、とうもろこし・えだまめ等の抑制作型など、需要に応じた生産に挑戦する農業者への技術支援の必要がある。

